



COLUMN

鎌倉の猫事情 第三十話

路地裏にひそむ不気味な灰色の影。それは、ある日突然現われたのです。幼いグーニー君が小さな体でやっと窓によじ登り、生れて始めて広い外の世界を目にしたのは今から3年前の暑い夏の日の事でした。そしてうだるような暑い夏が終わり、路地に秋風の吹き始めた頃、それは姿を現しました。その灰色の影は新しい住処と決めたこの路地裏のあちこちを一通り注意深く歩き回り、彼にとって危険な相手となる敵の存在を確かめていたのでしょう。その頃この路地裏は、猫にとって無風地帯といえる場所でした。こういった路地裏には、必ずといっていいほど、路地のヌシのような猫が数匹は顔をきかせているものです。我が路地裏もご多分にもれないのですが、数年前、この辺りで激しい猫の世代交代おこり、様子は一変しました。ミルクホールのシュガーちゃんも16年間長きに渡ってこの路地裏を構成する猫でした。何も分からぬ小さい頃手術を受けていたせいで生涯独身でしたが、彼女にもボーイフレンドは何匹かいました。小柄ながら体は健康で医者要らずの生活をし、戦いを好まない温厚な性質で、周りの猫達との関係はいたって静かなものでした。あの頃の猫達の中で今も目に焼き付いているのはお向いの家に長く住んでいた白い年寄りの猫です。お味噌汁をこぼしたような薄茶色のシミのある白猫で、両耳にはカギザギがあり、一目で辺りのボス猫とわかる威厳をもつ猫でした。彼が君臨していた間長年この路地裏は自然な統制のとれた無頼や無法を許さない、静かで平和な猫の楽園だったので。いつも裏の看護婦さんの寮の堀に寝ていた大きな茶色のトラ猫も、彼に一目を置き一定の距離を保っていましたし、白猫の方でも特に周りを牽制するでも威嚇するでもなくただ屋根の上から眠そうな目時折を下界に向けていただけなのでしたが、それで、誰も彼もが落ち着き皆平和に暮らしていました。しかし、どんな幸せな暮らしも永久に続くわけではありません。ミルクホールを見守り続けたシュガーちゃんが寿命をまっとうし、静かな死を迎えてまもなく、白猫も急激に衰えを見せ始めました。ミルクホールのガラス窓の向うに見える屋根の上で眠る姿が次第に変貌していきました。あれ？屋根に薄汚れたバスタオルが捨ててある・・・と思ってよく見ると、それは白猫の力なく丸くなっている姿でした。そしてそんな姿さえ見かけなくなり、屋根に登る力もなくなった白猫は、今度は隣の中華屋さんの駐車場にいました。駐車場に集まる悪ガキどものなくさみ者になっているのを見た時は、思わず涙がこぼれたものですが、それが私が白猫の姿を見た最後だったので。



そして黒猫のマリちゃんも、堀の上の茶色のトラも、ちょっと生意気だった鯖猫も、シュガーちゃんのボーフレンド達も、皆次々と姿を消していきました。

私達の暮らしの中でも時々そういうことがあります。猫好きだった母は、私が15歳の時急逝しましたが、その頃、仕立て職人でよく私を可愛がってくれていた隣のおじさんも、母のいきつかったパーマやさんのおばさんも、

大酒飲みで絵描きだった親戚のおじさんも、そして当時まだ15歳だった親友までもが突然の病に倒れ亡くなりました。ほんの半年くらいの間の出来事でした。世の中にはこういう『時期』というものがあるようです。この数年の間、小町の路地裏の人間模様にも随分様変わりしました。個性的で、あくの強かったご近所のお年寄りたちも随分と亡くなられました。同時に古顔だった猫達も姿を消し、その頃一年くらいの間だったでしょうか、ここはすっかり寂しい路地裏となっていたのです。その間お家も新しく立て直され、だんだんと町も人も今風に変化しつつありました。激動の時期を終え、すっかり寂しくなった路地裏に、灰色猫は忽然と姿を現しました。彼が姿を見せた時もうすでに成猫だったわけですから、この辺りの家に飼われているわけではないのはわかります。始めは路地の先の泌尿器科の玄関先に現われました。何より目を惹いたのは丸く大きな顔とがっしりした体つきもありますが、紫がかった微妙な灰色の珍しい毛並みは際立っていました。あきらかに旧世代を構成した猫達とは違っています。はからずもグーニー君も茶色のシャム猫風です。出身は三重県の山奥ですが、どこでどうしたのかは知りませんが、本来日本にはないはずのシャムの血が混じっているのです。斑、三毛、トラで構成されていた旧世代の猫達に代わる、新世代の路地裏の猫達の登場です。新しい戦いの構図を象徴しているかのようではありませんか。

私は、灰色猫とグーニー君の間に奇妙な因縁があるのを感じていました。そしてその因縁はそれほど愉快なものでないことも理解していました。

夜の路地裏で光る二つの目。窓辺によじ登り、始めて見る世界に驚く小さな目。戦いの日はもうすぐそこまで来ていたのです。

—— to be continued

